

所属・氏名（ 総合リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 氏名：佐藤 良樹 ）

著書、学術論文等の名称		単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1	(学術論文) Exploring sex differences in auditory saliency: the role of acoustic characteristics in bottom-up attention.	共著	2024 年	発 行 雑 誌 名 : BMC Neuroscience	論文全体の概要: 音響特性が聴覚のボトムアップ注意に与える影響について男女差を検討した結果、女性は基本周波数、男性は音の強度に敏感であることが示された。 25, Article number: 54 Naoya Obama, <u>Yoshiki Sato</u> , Narihiro Kodama, Yuhei Kodani, Katsuya Nakamura, Ayaka Yokozeki, Shinsuke Nagami.
2	(学術論文) 原著 研究題目: ボトムアップ性聴覚性注意検査法開発に向けた予備的検討《筆頭論文》	共著	2023 年	発行雑誌名: 言語聴覚研究	論文全体の概要: 注意機能の性差を考慮した新しいボトムアップ性聴覚性注意(BAA)評価法開発に向けて、予備的検討を行った。研究結果より、トップダウン性注意の影響を最小限に抑えた若年層における新しい BAA 評価法を提案した。 20 巻 3 号 pp.139-147 <u>佐藤 良樹</u> 、小浜 尚也、永見 慎輔、横関 彩佳、秋定 健
3	(報告・発表) 聴覚的顕著性モデルに基づくボトムアップ型聴覚性注意の性差の検討	共著	2023 年	第 47 回 日本高次脳機能障害学会学術総会にて発表。開催地は「仙台国際センター」。	概要: 聴覚的顕著性モデルに基づくボトムアップ型聴覚性注意の性差の検討した結果、BAA も男女差が認められた。 小浜 尚也、 <u>佐藤 良樹</u> 、兒玉 成博、秋定 健、中村 克哉、横関 彩佳、永見 慎輔
4	(報告・発表) 嚥下訓練に加え喉頭気管分離術や補綴装具の使用で経口摂取再獲得が実現した一例	共著	2023 年	第 24 回日本言語聴覚士学会 in えひめにて発表。開催地は「愛媛県県民文化会館」	概要: 上咽頭がんの放射線治療後に嚥下障害を認め、経口摂取の再獲得が困難と診断された症例に対し、喉頭気管分離術や補綴装具の使用を組み合わせながら総合的にアプローチしたことで経口摂取可能となった。 <u>三好 廉斗</u> 、 <u>佐藤 良樹</u> 、横関 彩佳、糸山 克哉、伊勢 眞樹
5	(報告・発表) ボトムアップ性聴覚性注意検査法開発に向けた予備的検討	共著	2022 年	第 23 回日本言語聴覚士学会 in にいがたにて発表。開催地は「朱鷺メッセ(新潟コンベンションセンター)」。	概要: 注意機能の性差を考慮した新しいボトムアップ性聴覚性注意 (BAA) 評価法開発に向けて、予備的検討を行った。研究結果より、トップダウン性注意の影響を最小限に抑えた若年層における新しい BAA 評価法を提案した。 <u>佐藤 良樹</u> 、小浜 尚也、永見 慎輔、伊勢 眞樹、秋定 健
	(報告・発表) 左視床損傷後の Apathy 症例に対し目標指向型アプローチを行うことで生活機能改善が実現した 1 例	共著	2020 年	第 44 回日本高次脳機能障害学会学術総会」にて発表。Web 開催。	概要: 左視床損傷により重度の Apathy を呈した症例に対して、Apathy 治療における目標指向型アプローチの有効性が示唆された。 <u>佐藤良樹</u> 、横関彩佳、小浜尚也、伊勢眞樹

令和 7 年 4 月 11 日 現在